

# 組合ニュース

発行：2016年3月10日

大分大学教職員組合

TEL・FAX：097-554-7998

E-Mail: oitauu@fat.coara.or.jp

## 第3回団体交渉報告

### 第3回団体交渉を行いました

第3回団体交渉を2016年3月4日に行いました。今回の議題は、①賃上げ、②入試（面接）手当、③クーリング期間、④放射線手当の4項目です。

#### ■賃上げについて

法人は、人事院勧告に基づいて、ボーナスの0.1ヵ月分の追加支給と基本給の平均0.4%の引き上げという上方修正を行うとしています（2015年4月に遡及、3月の給与で支給）。

組合は、今回の人勧準拠による上方修正だけではこれまでの不利益を回復するには不十分であり、大学として何らかの手当を検討するよう求めました。

去る2015年の人事院勧告では、給与を平均2%カットし、2015年1月の昇給は1号抑制されています。これらのカットや抑制が無かったならばもらえるはずの給与と比べると平均0.4%の改善を考慮しても、約6,000円～11,000円のマイナスとなっています。特に55歳以上の教職員の昇給は停止されており、カット前の給与に回復することは絶望的です。現在は、経過措置として2015年4月時点での給与を基準にした現給保障がされていますが、2018年3月には終了し、さらに給与がマイナスとなる見込みです。

組合は、①現給保障期間の延長、②昇給停止の開始を遅らせること、③ボーナスの追加支給等を求めましたが、法人は法定福利費を含む人件費の増大を主な理由に大学独自で賃上げを検討するのは厳しい状況であり、人勧に依拠することも今後は厳しくなると回答し

ました。

組合は、働く人が報われる改革を実施するよう国大協や対外的な場で学長に発言をして欲しいと要求しました。それに対し理事からは、学長や総務担当理事に伝え、信頼関係の中でその経過報告についても努力すると回答がありました。

#### ■入試（面接）手当について

入試手当に関連して組合から2つの要求をしました。

1つは、現在の入試で職務が存在しているのに、手当が存在していないものを洗い出すことです。人事課長からは学部間における入試問題のチェック等の手当のない職務が存在していることを認識している旨の発言がありました。法人は、組合の要求を受けて、入試関連の業務を整理して示すことを約束しました。

2つ目は、面接の手当についてです。新学部等の改組にともなって、面接業務は増大していますが、面接の手当は何もありません。わたしたちは、①面接はチームで行うものであること、②志願書の読み込み等の事前の職務があること、③早朝から夜遅くまで職務にあたるケースがあること等を理由に面接の手当の創設を求めました。これに対して法人は賃上げと同じ理由によって難色を示しました。しかし面接については手当を支給している他大学もあります。組合はこれからもねばり強く追及していきたいと思います。

#### ■クーリング期間について

以前のニュースでお知らせしたように、非常勤職員

のクーリング期間の短縮が実現しました。しかし、最大雇用期間（5年）以内であっても、一度、離職すると半年のクーリング期間が必要な状況です（非常勤講師、医員、TA・RA等を除く）。組合は、これには合理的な理由がないので、有期労働契約職員も最大雇用期間以内であればクーリング期間を満たさなくとも雇用可能にすべきと要求しました。

法人は、各部局からも同じような要望が寄せられているので前向きに検討すると回答しました。

## ■放射線取扱手当について

組合から、昨年の規約改正により放射線取扱手当の対象範囲拡大を行ったが、実際に手当を受けることができる人は増えたのか質問し、法人からは対象者は増えたが、実際の被爆の数値に該当する人はいなかったという回答がありました。組合は放射線取扱手当について、被爆した放射線量に依存したものではなく資格に依拠した手当にすることも他大学の例も参考にして検討するよう要求しました。さらに、入試や今回の手当に共通して、手当が付く人と付かない人がいるのではないかと思われるので、資格と手当支給の調査を実施し組合に提示して欲しいと伝え法人は了解しました。

## なごみカフェ報告 「これからの住まい選び」

12月11日、今年度2度目のなごみカフェを行いました。今回お話し頂いたのは教育福祉科学部の川田菜穂子さんです。テーマは「これからの住まい選び」です。



このテーマ、関心がある人も多いようで、多くの方が参加してくださいました。川田先生が持ってきてくださったのはマンションのチラシ。よ

く郵便受けに入っていますね。実はこの中で使ってはいけないと決られているのに、使われている言葉が多いそうです。「最高級」といった言葉がこれに当たります。表記の方法が不正確であるものもあるとか……。また、住まいを選ぶ上で考えるいろいろなことについて教えて頂きました。「地震や水害と住宅」、「賃貸の長所・短所、持ち家や分譲の長所・短所」などです。参加者も自らの経験をふまえて質問や議論をして大いに盛り上がりました。



# Union English 報告

今年の組合の活動の目的の1つに組合室を教職員の居場所にしてもらうことがあります。そのための企画の1つとして、しばらく行えていなかったUnion Englishを11月25日の昼休みに組合室で行いました。講師はラングレー先生と長池先生、テーマは「英語でことわざを学ぼう」でした。私が一番印象に残ったことわざは、“The squeaky wheel gets the grease”です。日本語にすると「軋む車輪は油をさしてもらえませんか。声を上げないとかまってもらえないということだそうです。日本のことわざ「出る杭は打たれる」のほぼ反対の意味で、文化の違いをよく示しているようでとても興味深かったです。「出る杭は打たれる」文化に育った私も、ここぞと言うときは、組合を通して「軋む車輪」になりたいものです。次回も楽しい英語のレッスンになると思うのでみなさんもお気軽にご参加ください。